



口之津中学校 学校たより

心広く  
心高く

創設訓  
自律・根性  
校長 大嶋博之

## 向き合うべき課題の 源流は何か？

(今回は、シリアスな(重い)話題です！)

「株価が史上最高値をつけた」と景気のいい話とは裏腹に、今、様々な課題が報じられています。学校現場で一番大きなものと言え「教員不足」と「学び方の転換」です。これらは次の二つが源流であると考えています。

- ・ 急激な人口減少
- ・ 急速な情報技術の発達

右記一つ目の「人口減少」に起因していると考えられるものを取り上げると、「教員不足」、「部活動の地域クニ化」、「学校の統合」、「運輸・流通の滞り」、「企業の撤退地方の衰退」などです。これらは、「人口がどれくらい減るか、いつまで減るか」ということを正しく認識しなければ、とるべき方策を見誤ります。総務省などの予測では、国の人口は、急激な減少期間に入り、五〇年を過ぎても減り続け、約半分へ向かうとのことでした。このことに覚悟を決めて正面から向き合うことが、全ての改革のスタートラインです。「今までどおり(Routine)じゃなくなっていく」は避けられない。そのような現実が始まっています。

「人口減少社会への対応」は裏面へ続きます。



## 「急速な情報技術の発達」への 対応について

「情報技術」と書きましたが、急速な変化が見られるものの中で四つを抜粋してみました。

- ① 生成AIの進化  
↓ 仕事の仕方が激変する。  
(もつすでに変わった職場あり)
- ② 半導体需要の増加  
(諫早でも工場増築)  
↓ 将来の職業として検討したい。
- ③ 手続きのデジタル化  
↓ 労働生産性(先進国で30位)を高めたい。
- ④ ネット産業の変化(巧妙化?)  
↓ ゲーム依存から抜け出したい。



これらを教育の現場に照らし合わせて、指導内容や授業の方法などを検討し、時代の変化に応じて改革していくことが求められています。一方、AI時代に人間に残される仕事は、次のようなものであるとも言われています。

- ・ 「決める・選ぶ」「責任を取る」仕事
- ・ 手間をかけてものを作る仕事
- ・ 味わいや深みがあるものを作る仕事
- ・ 人と接して心を通わせる仕事

これらの仕事を「人間らしく」行うためには、「生身の体験」を重ねておくことが重要になるとも言われています。つまり、コンピュータには分からない「感動」や「感謝」を感じ、「ものごとの意味や意義、価値」「倫理観や道徳性」を問い、「決断」をし、「人情」「情緒」に触れる。そのようなリアルな体験を意図的に計画的に積み重ねなければ、子どもたちは、将来、路頭に迷う——、と考えています。

《コラム 港町ブルース》

おそ

## 「自然を正しく畏れる」

東日本大震災から十三年目となる今年一月、久しぶりに宮城県の被災地を尋ねました。多くの犠牲者が出た石巻市立大川小学校は廃校となり、校舎を遺構として残して、隣に伝承館が建てられていました。悲惨な歴史がある場所ですが、その直前までは、子どもたちの元気な笑顔があり、賑やかな町並みがあったことも伝えたいと展示にありました。

「大丈夫だろう」という思い込みをやめる。最悪を想定して準備する。正しい情報を迅速に集め、機を逃さず判断する。経験と改善を重ねて力を高める。いざというときに助け合う関係を築いておく。これらが「自然を正しく畏れる」所作だということを確認した旅でした。



大川小学校(被災遺構)

### 《 主な行事予定 》

#### 《3月》

- 6日(水) 公立高校後期選抜～7日
- 14日(木) 卒業証書授与式
- 15日(金) 公立高校後期選抜合格者発表
- 22日(金) 修了式・離任式

#### 《令和6年度 4月》

- 8日(月) 着任式・始業式(給食あり)
- 9日(火) 入学式(午前)  
1年生育友会入会式  
(給食は2・3年生のみ)
- 12日(金) 生徒会入会式、部活動紹介  
歓迎遠足(要弁当)
- 18日(木) 全国学力調査(3年国・数)  
県学力調査(2年国・数)
- 19日(金) 県学力調査(3年英語)
- 23日(火) 育友会総会

《心に響いた言葉》「中学生が私を待って横断歩道のボタンを押してくれました。嬉しかったのでお伝えします。」  
学校運営協議会(コミュニティスクール)に参加されている地域の方から。



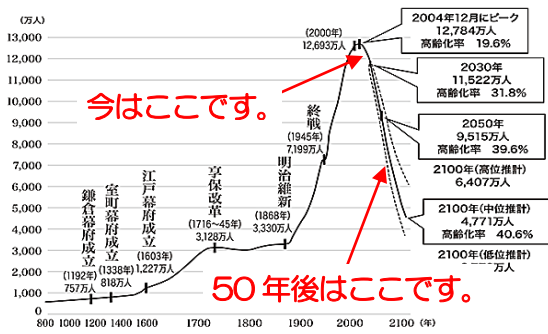
〈第三回〉

人口減少社会と人生百年時代

シリーズ「社会の動向と本県教育を取り巻く現状・課題」  
第四期長崎県教育振興基本計画から

この項目に関して、長崎県教育振興基本計画(案)に、次の記載がありました。

日本の人口は、平成二〇年をピークに減少傾向になりましたが、本県では、その約五〇年前から人口減少がはじまり、昭和三五年の一七六万人をピークに、令和五年においては一二七万人まで減少しています。



今はここです。

50年後はここです。

上のグラフは総務省が今後の日本全体の人口を予想したものです。言い方を変えれば、今は「ジェットコースターの下りの最初」です。この現実を正面から受け止めること、左の「人生一〇〇年時代」の記事は、「隠居せずに働きましょう」という願いに感じられます。

長寿社会が進展する人生一〇〇年時代においては子供や若者、社会人、高齢者など年齢を問わず全ての人が主体的に学習機会を得る環境を整え、学習の成果を社会生活や職業生活に活かし、生きがいをもって学び続けることができる社会の実現が求められています。

〈そこで、中学校(本校)では〉

これらの課題に対して、教育振興基本計画には、次のように綴られています。

そのため地域を舞台とした探究学習を通して「自分が社会の役に立って」、「自分の力で社会を変えられる」という経験を積み重ねることで自己肯定感を高めつつ新しいことや困難なことにチャレンジする精神や創造性、行動力を養い、地域の一員としての自覚を育み、ふるさと長崎を支える人材を育成していく必要があります。

先日の新聞報道では南島原市の生産年齢人口が今の二万人から、約二十五年後には七千人になるとありました。生徒たちが働き盛りの頃の事です。そんな時代を生き抜く力や考え方を身につけるために、本校では、具体的に次のことに取り組みたいと考えています。

- ・まずは、「人口急減」の現実を受け止める。
- ・ふるさとの歴史や文化・産業・人・自然をもっと知り、自分の強みや有利(ポイント)にする。
- ・教科授業や行事等をキャリア教育やふるさと学習と連携させ、小学校や高校等での学びと連結させて、未来を力強く歩む力をつける。
- ・労働生産性を高めるアイデアを出し合う。
- ・(今月から、教室に)コードレス掃除機を置きます。
- ・検定試験へのチャレンジを推進する。  
(英検・漢検・数検など) リンキングと言われています)
- ・「主体的に学ぶ」という習慣をつくる。
- ・(来年度から)「個人テーマ」に基づく研究を開始

「口之津温泉」

ふるさとの文化・歴史・人物——口之津中教育の視点から  
本校校区内にあるリゾート  
「しらはまビーチホテル」の  
ホームページに口之津温泉の  
記事がありました。



差し込む太陽にキラキラと水面が光る露天風呂、最高!

大浴場や掛け流しの露天風呂、潮騒を聞きながら豊かなお湯の恵みを心ゆくまでゆったりとお楽しみください。

源泉名：口之津温泉しらはま 温泉井

泉質：ナトリウム塩化物泉

適応症：神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、疲労回復、病後回復期、健康増進、慢性皮膚病、きりきず、やけど、虚弱児童、婦人病

美しい砂浜のすぐとなりの温泉でロケーションは最高! 効能はもう何でも効きます! という感じですよ。口之津って、やっぱりすごいなあと感じています。

【お知らせ：卒業式について】

本年度から、マスクに関する  
お願いなどはありません。卒業生は  
「入退場」と「ステージに上がる時」  
にマスクを外す以外は、生徒も自己判断です。  
それから、本年度からタイツや靴下の色を、  
生徒総会等の手続きを経て、黒や紺色でも良いと  
しておりますことをお知らせします。

